

右之外諸寺諸山の總代諸寺院之僧侶僧綱○中參內有獻上ハ鬼杉原十帖末廣扇一本或ハ卷數御札等例ごとの獻上物也

〔日次紀事正月〕九日 諸禮禁裏昨日今日明日間被勅德

伊勢一身田專修寺獻太刀樽代并蛇髮斗鯨魚阿濃津挽物器等於禁裏而賀年始南都西大寺獻札并豐心丹周防州國分寺獻卷數并豐心丹長門國分寺勸修寺家執奏之各賜白銀近江國山王社司樹下并生源寺獻札於禁裏院中此兩人共祝部氏也

〔日次紀事正月〕每年大筆祐以小筆善大夫獻御筆至近世世尊寺家主紙師筆人之事猶久我家之主盲人今無其儀

〔友俊記〕年中御作法の大概物がたり 元朝典侍内侍命婦よりひしはなびらあさくをめぐいに上らる、女房たちにもたしめてをところのうちにて御膳の下づかさにと末の衆わたすなり、これは御禮にまゐらる、院の女中命婦宮の上臈などのいはひになれり御禮の人々多ければ用ひらる、ほどの女中より上らる、三ヶ日ともに同じ内侍の第一長橋の局は典侍と同じ數ほどあがる命婦の第一伊豫の局大御乳人は内侍のなみにあがる、いづれもあさくぞする院の御所にては典侍葩餅三百枚内侍二百枚命婦百枚ツ、三日にあがるあさくはあがらす

〔故實拾要十五〕爲年始之御祝儀御太刀一腰御馬一疋進獻之候猶誰可令言上候此由宜被達叡聞候謹言

月日

將軍家 御諱

宛所 兩傳奏

爲年頭之御祝儀令言上候仍御太刀一腰御馬一疋并蠟燭千挺進獻之候此旨宜被達叡聞候謹言

月日

將軍家 御諱